

研究課題名：長崎原爆による放射線誘発白血病・骨髄異形成症候群の疫学研究

研究責任者：長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒバクシャ医療部門

血液内科学研究分野（原研内科）教授 宮崎 泰司

◆当該研究の背景及び目的

骨髄異形成症候群（Myelodysplastic syndromes：MDS）は高齢者に多く、高率に白血病に移行することが知られています。以前私達は長崎市内被爆者を対象とした疫学調査を行い、MDS発生率は被ばく距離・線量に反比例して上昇することや、高率に白血病に移行する病型ほど近距離被ばくでの発生率が高いことを明らかにしました。（Iwanaga M et. al. 2011）

しかし、原爆被爆者に発症したMDSの臨床病態（診断時の情報・診断から死亡及び白血病進展するまでの期間死因など）については解明されておらず、この研究では原爆被爆者に発症したMDSの臨床情報の収集と調査を行い、臨床病態を解明することを主目的とし、一般集団（≠非被爆者）におけるMDSとの相違を明らかにすることを副次的目的としております。

◆研究内容

本研究における対象患者は1985年1月-2012年12月までに診断された白血病・骨髄異形成症候群患者になります。診療録に記載された情報のみを収集するため、いかなる侵襲も発生せず、いかなる介入も行いません。各医療機関における白血病・骨髄異形成症候群患者の情報は、非連結匿名化した医療情報として提供されます。上記、各医療機関からの情報と平行して、長崎県腫瘍登録室および長崎大学原研情報室に原爆被爆者の基礎情報（被爆距離、被爆時年齢、生死）と原爆被爆者で白血病・骨髄異形成症候群発生または死亡の情報（診断日、生死、死因）を非連結匿名化したデータとして入手します。これらのデータを性別・診断時年齢・生年月日等を用いて各医療機関における情報と被爆者情報をつきあわせします。これらの情報をもとに、疾患単位・病型単位別に、被ばく状況・疾患発生に関する統計解析を行います。

◆研究成果の取り扱い

研究成果は関連雑誌への投稿、学会での発表を予定しておりますが、その際には集団に関する結果のみを発表し、個人に関する結果は発表しません。

◆連絡先

長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒバクシャ医療部門

血液内科学研究分野（原研内科） 教授 宮崎泰司

〒852-8523

長崎県長崎市坂本1丁目12-4

Tel：095-819-7111

Fax：095-819-7113